

令和7年度 第2回 大津市社会教育委員会議 議事録(概要)

□ 日 時

令和7年11月18日(火)14時30分~17時15分

□ 場 所

大津市役所 新館7階 272 会議室

□ 出席者

社会教育委員 10名

教育委員会事務局 11名(教育部長 ほか10名)

□ 傍聴者

なし

□ 内 容

1 開会

2 あいさつ

3 議事

(1) 今期テーマ「どの子ども取り残さない地域と家庭の教育力を高める施策の推進について」の視察結果及び建議書骨子(案)について

(2) 大津市子ども読書活動推進計画の進捗報告と意見聴取

(3) 大津市生涯学習推進計画の進捗報告と意見聴取

4 その他

5 閉会

□ 主な質疑・意見等

(1) 今期テーマ「どの子ども取り残さない地域と家庭の教育力を高める施策の推進について」の視察結果及び建議書骨子(案)について

①和邇学区地域学校協働活動視察結果の報告

※資料に基づき事務局より説明

【委員】

すてきな取組で感動した。しかし、自身が所属している団体で報告したところ、うちの学区では難しいという話になった。やりたい気持ちはあるが人の問題があって難しい。このような取組を行うには、人、場所、スタッフに加え校長の思いが同じことが必要。和邇学区では会長や事務局長、学校が共通した思いをもっていた。また、どの子ども取り残さないという思いを全員が持って取り組まないと厳しい。私たち団体もまだまだ地元で信頼を得切れていないと感じた。ルールを守ることは大切だが、まずはどうして命を守るのか。子供の教育の方向性に一致点を見出して、ハードルを一つ一つ越えていくことが必要だと思う。

【会長】

無理だと感じたところをどう越えていくかだと思う。その時に「どの子ども」という気持ちが必要である。そんなに困っている子がいるのか？ではなく、いることを前提に考えることが重要。うちでは無理というところをどうしていくか考えていきたい。人材をいかに育てるのか。先進的なところに倣って活動を広げていってほしい。

これからの地域づくりは大変だが、子供の教育というところで活路を見出していきたい。子供を巻き込んだ地域づくりを、今回の事例を参考にして地道にやっていきたい。大学でも学生との関わり方が変わってきており、リスクも増えている。ただリスクがあるからやらないのではなく、安心して活動できる環境づくりを大切にしていきたいところ。

②建議書骨子(案)について

※資料に基づき事務局より説明

【委員】

良くまとまっていると思うが、「1.大津市の子どもを取り巻く現状と課題」の「核家族」からのところは、数値があれば説得力が増すと思う。

【会長】

平松委員から事前に意見をいただいているので紹介する。「年代別人口比をふまえると、団塊の世代に続く世代の人口が少なくなるため見守りのボランティアの確保も程なく困難になることが想像できる。しかし同時に現役保護者のPTA解体の動きも顕著であることや、PTAがあったとしても保護者の多くがみな就労している状況のため、そうした限界をふまえた新しい視点も欠かせないと思う。学校や公民館が、地域の人々が世代間交流できる場を作っていくための工夫を、いろんな方の視点で展開して、あちこちで地域の方や子供達と出会える場があるといいと思う。」

PTAがしんどくなってきている。世代の気質の変化が大きい。「PTAをやらなきゃだめですか？」というスタンスの記事の方がうける時代になっている。なぜ必要なかの説明にひとひねり必要。

【委員】

「PTAは自由参加で任意加入ですが入会しますか？」と文書で明記されていれば当然加入者は減少する。

【会長】

自治会の加入についても同じことが起こっている。視察先の活動では20人がスタッフとして関わっておられた。継続的に行うためには人が必要だし、自治会としても羨ましく感じる。

【会長】

PTA会長をやっている人の苦労話を耳にしたが、任意だが入って良かったと思える活動にしないといけない。あえて入るという気持ちにさせていく必要がある。

【委員】

PTAをやめて保護者会になってもやっていることは同じ。PTA連合会への加入費を減らすために保護者会になっている。あり方が変わってきている。

【委員】

私は自治会活動や PTA 活動に参加して、活動の中でつながりを見つけて初めて楽しさを感じた。先日参加をした県人権大会ではメリットで活動を考えってしまう人が増えていて自治会離れが進んでいるという話を聞いた。今までのように入ることが当たり前という考え方を捨て既存のサークルやグループに呼び掛けて自治会活動を進めている地域もある。会長職の負担が大きければ会長は一人と決めずにグループですれば良い。代表を決めようとするから活動したいと思えないのではないか。

【会長】

コミュニティの良さを知ってもらわないといけない。学生も、少人数でしか集まらない、つながりを持つのが苦手な子が増えている。そのような子は自治会などに入りたがらない。行きたくないが、行かなければならないという時代は、行ってみると良かったということもあるが、行かなくても良いとなると行かなくなる。

行く行かないの意思表示ができるということは確かに大事だが、日本では意思表示を重んじてバラバラになってしまっているところがある。バラバラになるものをバラバラにならないようにする活動が必要。公共政策は自治連への補助程度しか行っていないが、地域がバラバラにならないように地方自治を高める施策が必要。市民には意思表示ができる力を身に付けさせるだけでなく、バラバラにならない活動への意識を高めていく必要がある。

和邇の活動に、地元の中高生や大学生に年に1回でも来てもらおうと雰囲気が変わると思う。その中で、あんな大学生になりたいと思う小学生も出てくるかもしれない。

【委員】

近くに大学もあるし、実現すると良いと思う。

【会長】

学生にとっては、子供への指導もできて良い経験になる。

【副会長】

団体の会員は 70 代が多く自由に時間を使える。今まで活動していなかった人が団体で活動することで生き生きしはじめ、地域での活動も活発になってくる。煩わしいこともあるが、ぶつかり合うことが力になっている。

【委員】

座学では限界がきている。教育の仕方も見直していく必要がある。子供はもっと遊ぶべき。文字だけでなく五感で感じながらだと覚えやすい。そのような時間を学校教育の中に取り入れるべきだと思う。

【会長】

学校での座学に集中できるような地域や家庭での教育が必要ということ。

【委員】

建議書骨子(案)に「生涯学習専門員、コミュニティセンター従事者、地域学校協働活動推進員の地域のコーディネーターとしての資質の向上」とあるが、そうした人が地域をつなぎ、コミュニティセンター等がうまくコーディネートすると、色々な人を巻き込んでいけると思う。

市内にたくさんある市民センターを拠点に、子ども食堂や放課後の学習支援を行うと、活動が地域の人たちの目に留まる。公民館、コミュニティセンターが核になり生涯学習と地域が協働することで、事業を継続していけると思う。

【会長】

行政はそれぞれ自分の仕事をやってはいるが、学生が京都市の職員にある質問をしたところ、縦割りだから他課のことは回答できないと言われたとのこと。京都の町は潤っているが、人とのコミュニティはスカスカになっていく。

自治協働の分野との連携が必要。行政間で担当を守ることと、総合的に課題を考えることは別であり、部局を越えて連携を深めてほしい。市民力を高めるということを多様なチャンネルで進めていく必要がある。

【委員】

葛川では移住者が増えており、その人たちが盛り上げている。人が少ないなりに皆が協力している。

【会長】

自覚で動く人を育て、コーディネートする必要がある。他の館でやっている講座を真似しているのではその程度のものしかできない。市民を育てないとこの地域はもたない、という意識が必要であり、その意識をしっかりと持った専門員の育成が必要。

【委員】

今の中学生はおとなしくて何を考えているか分かりにくいと感じている。座学はできるが、コミュニケーションが苦手な子が多いので、交流する動の学び、学び合い学習、相手が何を考えているかを知る学習を行っている。今は希望する生徒が地域の活動に参加している。先生が間に入らず直接地域の方たちと関わって学んでいる。そういったことが広がりつつある。

【委員】

地域で苦勞して行事を開催しても、学校からは校長、教頭くらいで先生が参加してくれなくなった。働き方改革が必要なのはわかるが、子供たちの事をもっと気にしてもらいたいと思う。

幼稚園でのPTA活動は、地域への一番の入口になる。PTAがなくなることで、保護者を地域活動に取り込む機会がなくなった。地域で中学生にボランティアなどを呼びかけると手伝ってくれるが、そこから上の世代になるとなかなか関わってくれない。

【会長】

国は地方創生を進めているが、市民社会の強化にはなっていない。民主化していくのはよいことだが、個人化していくだけでなく、自治をしていくことが大事。

【委員】

建議書骨子(案)の、「地域の環境づくりに努めなければならない」は押し付けに感じるので言い方を変えてほしい。

【会長】

今ご意見のあった骨子(案)の4(2)記載を、「地域の環境づくりに自分の子どもや地域活動を

通して関心を持ち、地域の一員として見守り続けることが大切。」とする。見守り活動は、地域の高齢者にしてもらうのが当たり前ではないこと、自分はサービスを受ける側だけではないことを明記することが必要。

「社会総がかり」のところに「(市民一人ひとりの責任)」を追記した。建議書においても、誰かがやってくれるわけではないということを考えたい。

【事務局】

今まではPTAが見守り等をやっていたが、PTAがなくなることで活動もなくなりつつある。地域の人達に任せておけば良い、自分はしないが地域の人にはしてもらいたいという考えでいてもらっては困るという思いからその表現になった。地域任せにするのではなく、家庭でも意識を持ってほしいという考えで記載している。

登下校の安全確保は、保護者の責任であると感じてほしい。日本だから治安が良くて成立しているだけ。自分も何かしなければいけないし、やってもらっていることに対して感謝が必要。

【会長】

今の話を建議書にはっきり書いてはどうか。ただ乗りではなく全員が意識を持つ、そういう方向で進めていきたい。誰かがやってくれるという慢心がある。20年後、30年後を見据え、地域の子どもをどう育てていくかをみんなで考えることが重要。世代の気質の変化、自分がしてもらったことを誰かにしてあげることの大切さ、個になった自分たちを再度一つにする努力を問うことが必要。

(2) 大津市子ども読書活動推進計画の進捗報告と意見聴取

※資料に基づき事務局より説明

【会長】

図書館ボランティアに対して報償費がでるようになったが、名称は？全校か？

【事務局】

ブックサポーターという名称である。ほとんどの学校で活動されている。地域の方に協力してもらうという形で活動いただいている。

【会長】

以前視察を行い、司書がいる学校の方が望ましいとの結果になったが、配置が進まないのはやはり予算の問題か。

【事務局】

全ての学校に配置するとなると難しい。

【委員】

この前の学校運営協議会でも読書の話がでた。スマホやゲームで読書離れに歯止めがきいていない。

【会長】

授業でスクリーンタイムを確認したことがある。TikTok や YouTube を見ている学生が多い。ある意味スマホで生活が管理されている。人とつながるとやはり長時間使ってしまう。その中でどう生きていくかを考えるフェーズになっている。自覚させてルールを作ることが大切。読書もどう自覚させるかが重要。1日15分の読書時間も積み重なると非常に長時間になる。その差を自覚させていくべき。いかに子供の心を動かして読書を習慣化させるかだと思う。小中学校でやっていた朝読書がきっかけで、大学生になっても続いている例もある。

【委員】

面白い本があれば図書館に行くと思うので、そうした図書館づくりが必要。

【委員】

時代を考えれば電子でもよいのでは。手軽に読書ができればと思う。今の子はうまく活用できるのではと思う。学校の iPad でも見られればよい。

【委員】

親が無関心な場合はどうすればよいか。

【会長】

図書館に親子でいく習慣を作っていく必要がある。

【委員】

なんらかメリットがあればよい。

【会長】

タイパコスパ時代になってしまっている。TikTokの方が短い時間でクスッと笑える。

【委員】

読書は授業時数に含まれないにもかかわらず、学校で朝読書をしていることは非常に価値があると考えているからだと思う。

【委員】

学校が任意でやっているのか。

【委員】

校長の判断になる。大津の中学校では全校実施している。

(3) 大津市生涯学習推進計画の進捗報告と意見聴取

●施策の柱1について

※資料に基づき事務局より説明

【会長】

総括コメントについて、量的達成度に注意が行き過ぎていると思う。コーディネート機能の向上など質的向上にも取り組んでほしい。研修や講座を開催するだけでなく、受講した市民を自ら考える市民に育てるような内容にできるとよい。

27「障害者の学びの場の提供」の「講演会への手話通訳者の配置」については、配置できていないところは本当にする必要はないのか。繰り返し言っているが、担当課に対し実態を把握するための全庁調査を進めるよう促してほしい。

●施策の柱2について

※資料に基づき事務局より説明

【会長】

生涯学習推進関連団体の不活性化が原因になっているのか。

【事務局】

既存団体の高齢化などによりそうになっている。新しい団体が加入しても減る団体の方が多い。

【会長】

市民社会が成長することで、個人がバラバラになる力が働く。その時、市民の団体は、社会がバラバラになることを押しとどめる力になる。

自発的に楽しんで活動している人たちや団体の関心を外に向けるなどして、少しでも地域に関わらせる工夫が必要。社会づくりや文化の伝承に関わってほしい。

●施策の柱3について

※資料に基づき事務局より説明

【会長】

コミュニティづくりや地域ガバナンスについては、自治協働の領域に関わる内容なので、他部局との連携が必要になる。